

吉田(生光高)優勝 U18男子ハンマー

U18女子砲丸 川口(生光高)3位

陸上

JOC杯U18・U16

陸上のJOCジュニアオリンピックカップ第15回U18・第52回U16大会第2日は23日、愛媛県総合運動公園陸上競技場で男女10種目が行われ、U18男子ハンマー投げで吉田匠(生光学園高)が58秒28で優勝した。U18女子砲丸投げの川口由真(生光学園高)は13秒37で3位に入った。U18男子3000メートルでは村田真一朗(鳴門渦潮高)が決勝に進み、34秒31で8位。同走り幅跳びに出場した三加茂中出身の元木涼介(京都・洛南高)は7秒02で11位だった。

△徳島関係の成績

組別対決(鳴門渦潮高)34秒31決勝進出(同決勝)村田真一朗(鳴門渦潮高)34秒31走り幅跳びの元木涼介(京都・洛南高)三加茂中出身の元木涼介(京都・洛南高)7秒02走り幅跳びの川口由真(生光学園高)13秒37予選4組の大塚百花(吉野中)19秒65予選3組の佐藤花菜(山中)5秒17

子砲丸投げで3位入賞
「1投目で緊張から力みすぎて失投してしまった。2投目でなんとか13秒台を投げることで、3位に入れたが、悔しい思いの方が強い。来年、地元で行われるインターハイに向け、練習を頑張りたい」

重圧はねのけ本領発揮

吉田

8月の全国総体(インターハイ)よりうれし「1」と声を弾ませた。出場選手中ランキングトップで今大会に臨んだ吉田。重圧をはねのけ、高度の試技で上位8人に入らないと3投目以降に進めない。緊張から力を出し切れない有力選手もいる中で、吉田は「投げてやろうという気持ちで先走ってしまった」と言いながらも2投目で58秒台をマーク。「練習より本番に強い」(林監督)という本領を発揮した。



U18男子ハンマー投げで優勝した生光学園高の吉田

表彰状
JAAF
第15回U18陸上競技大会
種目 U18男子ハンマー投げ(6.000kg)
第1位
記録 58.28
吉田 匠
生光学園高等学校
栄光を讃える
2021年10月23日
徳島県体育協会

大会前は人知れず重圧と格闘していた。1週間前には腰痛を訴え「欠場したい」と口にした。医師から出場できるとのお墨付きを得たが、林監督は「怖くなり、少しの痛みを強く感じたのだろ」と推し量る。そんな窮地からの全国V。恩師は「プレッシャーに打ち勝った。素晴らしい」と目を細めた。

神戸市で過ごした中学時代は無名の存在ながら、投てきのために徳島にやってくる。ついに全国の頂点に立った。4月からは四国大に進み、引き続き徳島からさらなる高みを目指す。

(加治陽)